

# 大きな災害に全員で備える

光市は海岸線の美しい人口四万五千人の町。この風光明媚なリゾート都市にも、災害は同じように襲いかかるのだ。この町で住民の安全を守ってきた時盛建設の時盛社長にお話を伺った。



時盛 貞男  
SADAO TOKIMORI 時盛建設株式会社取締役社長

した。僕は丸二昼夜、会社に泊まり込んで警戒態勢をとり続けました。結局、決壊まではいかなかったんですが、付近の災害復旧にはその後二年ほどかかりました。

## 海岸線を守る 松林の植樹も

地区によって守るべきところが違うんですね。光市は海岸線に沿った、言わばリゾート都市なんです。この海岸を高潮から守るのが大変なんです。高潮が怖いのは、単に海岸だけの問題じゃなくて、それだけでなく大雨で決壊しそうな川に海の水が逆流してあふれてしまう危険が大きいんですね。

三年前の台風十八号のときは、高潮で下水道浄化センターが水浸しになりました。一階の事務室は水没して、コンピュータが使いものにならなくなった。駐車場の自動車も全部ダメになった。一部の松林もかなりやられました。島田川が決壊しないですんだのが、まだしも幸いでした。松林にはそのときの傷跡が今で

も残っていますが、光市ではこうした松林を守ろうという取り組みが始まっています。今年の春にはボランティアによる松の植樹も行われて、実は社員数名も参加したんです。護岸工事も自然型の護岸に変わってきていますし、自然を生かした防災や復旧の方法がとられるようになってきましたね。



松の植樹と光の海

## いつ来るかわからない 災害に備えて

災害はいつやって来るかわからないので日頃の備えが大切。うちには防災マニュアルがあるので、災害時にはどう動けばいいかはつきりしています。社員は本社や作

業所に集合して待機。県の要請を受けて危険個所のパトロール。独自で工事現場などをパトロールする場合もあります。危険があれば応急措置をして県へ連絡。専務が本部長として全体の指揮をとります。

通常でも月に一度は防災パトロールをやっています。危ないという場所を見つけたらまずは応急措置。道路が陥没していたら、コーンやピカピカを置いて通行する人に危険を知らせます。

得意先から「すぐに来て！」と呼ばれることもあります。屋根が飛びそうだと連絡が入ったときはさすがに慌てました。台風の最中で動こうにも動けないんですね。でも、風が少しおさまると応急措置で屋根にシートをかけたんです。その後吹き返しが始まったんですが、なんとかセーフ。みんなホッとしてましたよ(笑)。

# 危険伴う復旧作業に備える

萩地域は、小さい規模の災害は時々あるが、過去、それほど大きな災害は少なかったが、平成三年の台風十九号は違った。その復旧活動に関わった萩支部指月建設株式会社・取締役部長長杉山智明さんにその時の話を伺った。

## 突然の災害出動で

毎年、雨による小規模の土砂災害がある程度の萩地域でも平成三年の台風十九号の被害は、甚大だった。



杉山 智明  
TOMOAKI SUGIYAMA  
指月建設株式会社 取締役部長

「土砂によって道が塞がれ、観光バスや家用車などが十数台、閉じこめられたため、パトロールの要請を受け出動したのが、夜の八時頃でした。」

まっ暗闇の暴風雨の中、何が飛んでくるかわからない状況でのパトロール。実際のパトロール中倒木の下敷きになりケガ人も出て、救助と作業で大変でした。ちょうど、台風



とやみ、月も見えないくらいで、その間に車を出し終わり安心したら、再び風が吹き始め、今度は、自分たちが閉じこめられ、チェーンソーで倒れた木を切ってはよけ、切つてはよけての手作業で、ようやく夜中の十二時頃抜け出せました。災害時には、何があるかわからない考えもつかないことの連続ですね。

## いつもの仕事以上に 緊張感でいっばい

平成三年の台風十九号以外では、平成九年の台風九号で雨による浸水、土砂崩れなどの被害がありました。

パトロールには、二人一組で出るようにしています。通常の作業をしている時でも、パトロールが必要な時には、それなりに人員を確保して、多い時には一日二〜三回、



ただし、状況が悪い時には、一時間おきにパトロールすることもあります。また、気象情報も日頃からよくチェックし、災害の発生が心配される時には、社員に携帯電話を持たせ、常に連絡ができるようにしています。

災害は、誰でも非常に緊張した状況です。その災害に対してパトロールだけでなく、復旧作業をする際は、日頃から現場にいないと分からない面もあり、災害時はいつもの仕事以上に緊張感でいっばい。以前、幹線道



路の見張りをするために、直接関係のない道路を通行止めにしなくてはならないことがあります。その時は、通行しようとする方に理解を求めることが大変でした。ですから、少しでも皆さんの理解があれば、災害時の誘導等についても、もっと今以上にスムーズにいくのではないかと思います。

